

静かにささやく声

牧師 山本 護

イエスが復活した週の初めの日の明け方(マタイ 28:1)「大きな地震が起こった。主の天使が天から降って近寄り、石をわきへ転がし、その上に座ったのである(28:2)」。大きな地震は前々日の十字架の死の際にも起きています。「そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂けた(27:51)」。

福音書に限らず、天変地異は重要な歴史的出来事と結びつけられやすい。こうした心性は素朴に分かります。いつの時代も、人間が生きていくことは不安で、寄る辺なく、予測できず、存在の足場はもろい。ですから地震や、日蝕や(27:45)、奇妙な天体の出現などを(2:2)、歴史的な変革を為す神からのサインとして受け取るのです。

生々しい記憶としては 1995 年の阪神淡路大震災、2011 年の東日本大震災。そして近年増えている線状降水帯による洪水被害、大規模な山火事など。こうした災害に、神的なメッセージを読み取ろうとする人々の意外に多いことを知りました。しかし聖書は、己が不安から、神のサインを恣意的に読み出そうとする姿勢を戒めます。

「主の御前には非常に激しい風が起こり、山を裂き、岩を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風の後に地震が起こった。しかし、地震の中にも主はおられなかった。地震の後に火が起こった。しかし、火の中にも主はおられなかった。火の後に、静かにささやく声が聞こえた(列王上 19:11~12)」。

私たちは台風や、地震や、山火事に神のメッセージを探すのではなく、今ここに満ち満ちている命と共に、主なる神の「静かにささやく声」を聞く。力を抜いて、ぼんやりしていると、この身を通り抜ける聖霊の風が感じられるかもしれません

ふと足元を見ると、クリスマスローズが咲いています。咲く時期が随分遅いじゃないか。でもこれは、クリスマスローズの近種「レンテン(レント受難節)ローズ」のようです。そうかあ、十字架へ向かう受難節の花なのか。受難節、緊張が高まり、暗さが深まっていく中でも、この時を忘れないで淡々と咲く「静かにささやく声」。

習いとなっている受難節の苦難を、脱力して今一度、思い直してみようか。大きな事件に気を取られるのではなく、落ち着いて、静かにささやく声に耳を傾けてみます。Ω

